

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり水島 あかり (重心・児発)		
○保護者評価実施期間	R7年12月9日		～ R7年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名 (6家庭)	(回答者数) 5家庭
○従業者評価実施期間	R7年12月10日		～ R7年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手厚い配置と個別性に配慮した専門的支援。	職員が個に合わせた机・椅子・遊具を作成したり、利用児に合わせて動線を調整するなど、環境面でも個別配慮を徹底している。	重症児や低年齢児のニーズ把握について、他職種と連携したアセスメント手法をさらに深掘りし、共有する時間を確保することで支援の質を高める。
2	家族支援と情報共有。	引き継ぎ時間を活用し、家庭での困りごとを丁寧に聞き取る姿勢や、茶話会・きょうだい児への活動案内など、家族全体を支える視点を大切にしている。	保護者の希望による個別相談を継続し、次年度からは保護者を含めた「こどもの意向」を可視化することで、より本人・家族主体の計画策定を目指す。
3	危機管理体制の構築と周知。	事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等の各種マニュアルがあり、ヒヤリはつとや事故(怪我)に繋がった事例は迅速に共有検討して再発防止策を講じている。	避難訓練実施日が固定化されがちな点を改善し、曜日や時間帯を変えて様々な想定での訓練を実施することで、対応直をさらに強化する。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ハード面(環境・構造上)の老朽化とスペースの制約。	共有スペースの活用で工夫しているものの、物理的な広さの限界や設備の経年劣化が影響。	優先順位を立てて、修繕していく。限られたスペースでも衝立や時間差による棲み分けに努め、安全で快適な環境整備を進める。
2	職員が一同に集まる時間(情報共有・振り返り)の不足。	サービス提供時間が重なることによるマンパワーの分散と、記録業務に割く時間の不足。	全員が集まれない日は「記録によるタイムリーな共有を継続実施し、ICTの活用等で隙間時間に情報交換ができる体制を構築する。また、アセスメント結果を支援に結び付ける時間を捻出する。
3	外部機関との連携における一方向性。	相手期間との温度差や、連携のための物理的時間・窓口の限定。	安全計画の見直しに現場職員も参画する等。まずは内部の体制を整えた上で、園・学校とのやり取りをより双方向にするための具体的な連携シートの活用や定例会議の効率化を検討する。